

## 第 22 回地理情報システム学会 企画セッション 1

### 「レジリエントな国土・地域社会の構築のための地理空間情報の活用」

【開催日時】 10 月 26 日（土） 9:30～11:10

【場所】 慶応義塾大学三田キャンパス 会場A

【オーガナイザー】 小荒井衛（国土地理院）、 芮京祿（千葉大学大学院園芸学研究所）

【セッション概要】

我々が生きる国土・地域社会には、様々な攪乱の要素がある。地震・大雨・台風・高潮・津波等のような自然災害、地球温暖化などの気象変動、エネルギー資源の枯渇などがあげられる。こうした攪乱を受けた結果、人口減少、経済活動の減退、生態系サービスの劣化等が生じ、環境・社会・経済の持続性に悪影響を及ぼす。これらの攪乱に対して「しなやかに立ち直れる強さ」を備えた国土・地域社会の構築には、土地や生活者を取り巻く環境の変化を的確にモニタリングし、なお、攪乱を受け入れることのできる受け皿や立ち直れる潜在力を分析する技術が大事になってくる。その技術とは、昨今の情報通信技術の発達を背景にした地理空間情報の活用、分析技術に繋がる。本セッションでは、「レジリエント」な国土・地域社会の構築には、その土地や生活者が持つ潜在力や復元力を正確に分析・評価する技術が大事であるという基礎認識に立ち、地理空間情報を活用分析した国土・地域計画の可能性を海外及び国内の事例を紹介を交えて、ディスカッションするものである。

【プログラム】

・Ye 京祿（千葉大学大学院園芸学研究所）「英国における国土のエリアマネージメントの手法」

GIS を活用した英国のランドスケープ特性評価による、同質なエリア特定的手法とエリアに対する詳細なプロファイル、マネジメントの事例を紹介し、国内の国土管理への適用可能性について話題提供する。

・上原三知（信州大学農学部）「地域計画のビッグデータ（エコロジカル・プランニング）の現代的意義—東日本大震災の自然予測と復興計画への応用—」

都市・地域計画分野初のビッグデータと呼べる 1980 年のエコロジカル・プランニングの基礎データが活用されなかった理由を整理し、東日本大震災の被災エリアへの適応検証から、本データの有用性を指摘した。

・杉本直也（静岡県企画広報部情報統計局情報政策課）「GIS による防災情報の発信とオープンデータへの取り組み」

静岡県が統合型 GIS の運用を開始して 2 年が経過した。GIS を利用した防災情報の発信事例やオープンデータへの取り組みについて紹介する。

・川上征雄（(株)都市未来総合研究所特別研究理事；前国土交通省大臣官房審議官）「地理空間情報を活用した国土政策の展開」

国土計画などの国土政策分野においては、地理空間情報の活用は必須である。2050 年の国土の姿を定量的・可視的に描き出した長期展望作業や東日本大震災の教訓を政策に反映する取組の際に用いた GIS の事例などを紹介する。

・総合討論（コーディネーター；小荒井衛：国土交通省国土地理院）

総合討論では、以下の 2 つの話題を中心に、パネラーの方々や会場にお集まりの皆様方から御意見を頂き、活発な意見交換を行いたいと考えています。

1. 国土計画・地域計画における地域区分の重要性・必要性
2. 国土計画・地域計画策定に必要な地理空間情報とは  
どのような情報を整備すべきか？現時点で足りない情報とは何か？  
どの程度の更新頻度が必要か？など